

優秀賞

努力を無駄にしない。

(近畿) 新運輸(株)

山田 拓

今春、私が勤める会社の目と鼻の先で、たて続けに二件の交通事故が起きた。二件とも新聞やテレビで取り上げられる程の大きな事故で、報道に接した時、まさかこんな近くで悲惨な事故が起こるのかと慄然とした。

両件とも運転手が高齢で、双方ともが何らかの要因で運転の操作を誤り、事故を発生させたという事が判った。

私にはそれが他人事だと思えなかった。私自身が既に高齢と言われる職業ドライバーである事と、数年前に受けた心臓の手術の影響が少なからず有り、若かりし頃のような、壮健な身体では無いという現実を日々、思い知らされているからだ。

会社の近在で起こったこの二件の事故は、これから事故を起こさずに仕事を続ける為に何をすべきかを私に深く考えさせた。

そして考えた先に思い至ったのは、実に基本的な二つの事であった。

「無理をしない。」

「無茶をしない。」

今、この年になって思い返すと、体調の良い時や気分が高揚している時に、それが危険であるという自覚が無いまま、無理や無茶な運転をしてしまう傾向があった気がする。

無理と無茶は、事故を招く呼び水になり兼ねない危険を孕んでいる。

しかし、無茶なスケジュールを、無理な遣り方で、何事も無く乗り切った成功体験があると、人は次もそれが通ると当然の様に考えてしまう。

それは、単に運が良かっただけの話で、幸運が永遠に続く訳が無い当たり前の現実を、都合良く無視してしまう。そんな失敗で起きた事故の報道を、私達は幾度も見ている筈なのに……。

あの二件の事故と共に、最近の交通事故の報道で気になるのは、「高齢ドライバー」という言葉だ。

「高齢ドライバー」言わばそれは、経験を積んだ「ベテランドライバー」という事ではないのか？歴戦の兵(つわもの)と言っても良い。

しかし当然ながら、事故を起こせばベテランとは呼んではもらえない。

そう呼ばれる為には、やはり無理と無茶は禁物である事を自覚しなければならない。

若い頃の私は、人は年齢を重ねれば重ねる程に、自分の行動や言動に注意をし、自重的になるものだと思っていた。しかし最近になり、それでも無い人も多数いる事に気付いた。

心理学や脳科学の世界では、それまでは出来ていた我慢や自制が、加齢により抑制出来なくなる症例は珍しい事では無いらしく、そう言われれば、いい年をした結構な地位の人が、考えも無しに言い放った言葉が大問題になった事例を幾度も目に耳にしている。

その度に私の胸に去来するのは、どうしてこの人たちはいい年をしてそんな無茶な事を言うのだろうか、やってしまうのだろうか？という疑問だった。無理しなければ良いのに……と。

無理や無茶が不幸を招く扉であるとするならば、その扉を開かない為に今の私に必要なのは、自

分と他人とは違う、俺は運に守られている。そんな楽観論とも言うべき安易な思い込みを捨て去り、若い頃の勢いや体力は既に遠い昔である現実を、しっかり見つめ直す事だろう。

荷物を預かりトラックに載せ、指定の場所に安全に届ける。こう書けばそれは単純な仕事に聞こえるが、その過程には大小の事故の危険が潜んでいる。それを時には経験で、時には技術で乗り切っていくのが職業ドライバーの日常ではないだろうか。

安全に仕事を遂行するのはどんな仕事でも当然の事だが、その意味で言うと、トラックドライバーの仕事には、ストレスとなる要因が多くあると思う。

それを潜り抜けて、何事も無く仕事を終えるのが当たり前、それがトラック乗りとしてのプライドであるならば、例え誰に褒められる事が無くても、無理で無茶な手段を選ばず、危険に近づく行動は慎むのが得策である事は、明らかだ。事故は、自分だけでなく他人をも不幸にしてしまう最悪の結果である、その原因が無理や無茶に起因するものであったなら、それまで積み上げてきた努力や成果は全て「無駄」の一言で片付けられ、消えてしまう。

それはあまりにも悲しい。運に頼るのはやめよう。もう若く無い事を自覚しよう。無理や無茶とは、さよならしよう。日々の努力を無駄にしない為に。「ベテランドライバー」と呼ばれる為に。